

2022年度
(令和4年度)

事業報告書

自 2022年4月 1日

至 2023年3月31日

公益財団法人ユニジャパン

2022年度 事業報告

I. [事業の状況]

1. 国際映画祭事業

- 名 称： 第35回東京国際映画祭
- 主 催： 公益財団法人ユニジャパン
(第35回東京国際映画祭実行委員会)
- 共 催： 経済産業省
国際交流基金（アジア映画交流事業）
東京都（コンペティション部門、ユース部門）
- 期 間： 令和4年10月24日（月）～令和4年11月2日（水）
- 企 画： コンペティション、アジアの未来、ガラ・セレクション、
ワールド・フォーカス、NIPPON CINEMA NOW、日本映画クラシックス、ユース、
ジャパニーズ・アニメーション、TIFF シリーズ、黒澤明賞授賞式、黒澤明の愛
した映画、TIFF ティーンズ映画教室 2022、国際交流基金×東京国際映画祭 co-
present 交流ラウンジ、Amazon Prime Video テイクワン賞 他
- 会 場： 東京ミッドタウン日比谷、東京宝塚劇場、東京国際フォーラムホール C、TOHO シ
ネマズ日比谷 SC12 をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・ホールを使用
- 後 援： 総務省／外務省／観光庁／千代田区／中央区／(独)日本貿易振興機構／
国立映画アーカイブ／(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／
(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA)
／全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
特定非営利活動法人映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／
(公財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／
(一社)デジタルメディア協会
- 支 援： 文化庁
- オフィシャルパートナー： 日本コカ・コーラ株式会社／amazon プライムビデオ／株式会社カプ
コン
- プレミアムスポンサー： 三井不動産株式会社／三菱地所株式会社／株式会社木下グループ
- スポンサー： 株式会社アイム・ユニバース／
株式会社バンダイナムコホールディングス／大和ハウス工業株式会社
／株式会社帝国ホテル／株式会社 IMAGICA GROUP／
株式会社スター・チャンネル
- トランスポートパートナー： 東京地下鉄株式会社／東京都交通局
- メディカルサポーター： ICheck 株式会社
- コーポレートパートナー： 松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社 KADOKAWA／

日活株式会社／一般社団法人映画演劇文化協会／
一般社団法人日比谷エリアマネジメント／
東京ミッドタウンマネジメント株式会社／
DMO 東京丸の内／Ligare 大丸有エリアマネジメント協会
メディアパートナー：株式会社 J-WAVE／株式会社 WOWOW／日本映画専門チャンネル／
ウォール・ストリート・ジャーナル／LINE 株式会社／
株式会社つみき／株式会社ムービーウォーカー／ぴあ株式会社／
株式会社 ニッポン放送／Variety／Hollywood Reporter
フェスティバルサポーター：西尾レントオール株式会社／株式会社トムス・エンタテインメント
／株式会社クララオンライン／株式会社レントシーバー

【開催概要】

第 35 回東京国際映画祭は、令和 4 年 10 月 24 日(月)から 11 月 2 日(水)までの 10 日間、日比谷・有楽町・丸の内(新規)・銀座地区にて開催された。

日比谷を中心とした開催地に移転して 3 年目の本年も気の抜けないコロナ禍での実施であるため、その取り組み内容に対しては慎重な検討を重ねての準備となった。公的な支援は例年並み、或いは、それ以上を獲得する事が出来、また、民間協賛社による協賛金も徐々に取り戻しており、全体予算はかなり平常時に近い規模まで戻すことができた。

第 35 回東京国際映画祭の目標として、①上映会場の拡大、②上映本数の拡大、③海外ゲスト招への拡大を図った。また、ポストコロナに向けての一層の「飛躍」をテーマとして掲げた。この「飛躍」をテーマに今年も昨年に続きコシノジュンコ氏に映画祭のビジュアルデザインを依頼した。

上映会場に関しては、昨年までの上映会場に加え、新たに、TOHO シネマズ日比谷 SC12・13、丸の内 TOEI ①、丸の内ピカデリー 2 を活用し、本数の増に対応する環境を整えた。また、オープニングセレモニー会場として東京宝塚劇場を初使用した。そして、新たに三菱地所の協力により、丸ビル 1 階「マルキューブ」や「有楽町 micro FOOD&IDEA MARKET」の活用が可能になり、千代田区の共催により千代田シネマセレクションの会場としてベルサール神田も利用するなど、より広域での映画祭開催が実現できた。

上映本数についても、主要 9 部門の上映本数は 86 本から 110 本に増加させることができた。

海外ゲストの招へいについても、前年度が厳密なコロナ対策を施した上での 8 人だったところから、実施直前に入国制限が大幅に緩和したこともあり、104 名(内訳：審査員 5 名、作品ゲスト 74 名、映画祭関係者 13 名、海外プレス 12 名)と前年対比では大幅に増やすことができたが、完全な回復までには至っていない。

今年のトピックとしては、3 年ぶり、日比谷では初のオープニングレッドカーペットの実施が挙げられる。実施に当たっては、三井不動産(株)、東宝(株)、日比谷エリアマネジメント、東京宝塚劇場、千代田区、丸の内警察の多大なるご協力をいただき、実現する事が出来た。人の密集による事故の発生を未然に防ぐため、カーペットの模様を生で鑑賞できたのはごく一部の方となったが、オンライン上での生配信もあり、大変な活況を呈した。また、作品ゲストの皆様も多数参加いただき、3 年ぶりのカーペットを十分に楽しんでいただけたものと思われる。そして、オープニング

セレモニーを東京宝塚劇場で初実施した。今まで貸し出しの実績がほぼないという事で、東京宝塚劇場側とは綿密な打ち合わせを重ね、実現に至る事が出来た。冒頭の宝塚 064 名によるパフォーマンスは「宝塚」という会場と「映画」をイメージしたものであったが、大きなインパクトを与え、オンライン視聴数も大きく伸ばした。セレモニーは、オープニング作品「ラーゲリより愛を込めて」の主演二宮和也氏、監督の瀬々敬久氏の挨拶で締めくくった。その後の上映は同じビルの地階にある TOHO シネマズ日比谷 SC12・13 にて実施。なお、不特定多数の集客や大人数の人的交流を避けるため、オープニングパーティーについては今年も中止とした。

2 つ目のトピックは、14 年ぶりに「黒澤明賞」を復活開催したことである。この賞を掲げる事で、世界の映画界に対し強く「日本（東京）」をアピールする事が出来た。世界と日本を代表する 2 人の監督を招き、授賞式後には晩餐会を催した。（詳細は、自主企画（12）を参照のこと）

その他、先述したように、会期中は、上映会場、イベント会場も拡張し、国内外の映画祭関係者、プレスの皆様、一般のお客様が様々な形で交流できる場を創出する事が出来た。

最終日、クロージングセレモニーは、東京国際フォーラムホール C で実施。前年度は日本在住の方以外の受賞者が呼べない中での実施であったが、今年は海外から参加の作品ゲストも多数呼ぶことができ、受賞者へのリアルな贈賞が可能になった。また、小池都知事にもご出席いただき、東京グランプリ作品への都知事賞の贈賞、及び、ご挨拶をいただく事が出来た。

その結果、今映画祭の自主企画は 44 企画（うちリアル 33 企画、オンライン 11 企画）で、リアルな動員数は 110,420 人（前年対比 191.9%）、オンライン動員数は 926,815 人（前年対比 120.6%）となった。全体上映作品数は 174 本で前年対比 49 本増。

最後に、映画祭におけるコロナ対策としては、前年同様、映画祭ガイドラインを作成・遵守すると共に、スタッフ全員の抗原検査を計 3 回行ったが、結果的に一人の陽性者も出ることなく、無事、終わることが出来た。

[自主企画]

(1) コンペティション部門（共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2022 年 1 月以降に完成した長編作品を世界各国から公募、選定コミッティーによる討議の後、15 作品が選定された。

各作品の上映時、来場したゲストによる舞台挨拶、及び、Q&A を新型コロナウイルス対策を十分に取った上で実施し、観客との交流を深めることが出来た。

[国際審査委員]

審査委員長：ジュリー・テイモア（演劇オペラ演出家/映画監督）

審査委員：シム・ウンギョン（俳優）

ジョアン・ペドロ・ロドリゲス（映画監督）

柳島克己（撮影監督）

マリークリスティーヌ・ドウ・ナヴァセル（元アンスティチュ・フランセ館長）

[各賞の授賞結果]

・東京グランプリ／東京都知事賞

『ザ・ビースト』（監督：ロドリゴ・ソロゴイェン）

賞金：300 万円

- ・審査員特別賞 『第三次世界大戦』（監督：ハウマン・セイエディ） 賞金：50万円
 - ・最優秀監督賞 ロドリゴ・ソロゴイエン『ザ・ビースト』 賞金：30万円
 - ・最優秀女優賞 アリン・クーペン Heim『1976』 賞金：30万円
 - ・最優秀男優賞 ドゥニ・メノーシェ『ザ・ビースト』 賞金：30万円
 - ・最優秀芸術貢献賞『孔雀の輝き』（監督：サンジーワ・プシュパクマール） 賞金：30万円
 - ・観客賞 『窓辺にて』（監督：今泉力哉）※観客による投票で最高点
- [上映作品数] 15 作品 [動員数] 12,488 人

（2）アジアの未来部門 （共催：国際交流基金アジアセンター）

日本を含むアジアで作られた、新鋭監督の3本目までの長編作品を対象にした、アジア・コンペティション部門。今年、日本映画は2作品を選出、全てワールドプレミア作品である計10作品より、最優秀作品賞が選出された。

[審査委員]

斎藤綾子（明治学院大学文学部芸術学科教授/日本映像学会会長）

ソーロス・スクム（プロデューサー）

西澤彰弘（東京テアトル株式会社 編成部長）

[アジアの未来 作品賞]

- ・『蝶の命は一日限り』（監督：モハammadレザ・ワタンデュースト） 賞金：100万円

[上映作品数] 10 作品 [動員数] 4,151 人

（3）ガラ・セレクション部門

世界の映画を代表する日本公開前の最新作（公開未定作品含む）をプレミア上映する部門。本数も厳選し、計16作品となった。（オープニング作品、クロージング作品含む）

[上映作品数] 16 作品 [動員数] 7,931 人

（4）ワールド・フォーカス部門

世界の国際映画祭で話題になった作品で、日本国内の上映予定がない作品をいち早く紹介する部門。今年はラテンビート映画祭との共催による5作品や台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター共催のツァイ・ミンリャン監督デビュー30周年記念特集も上映。

[上映作品数] 22 作品 [動員数] 8,291 人

（5）NIPPON CINEMA NOW 部門

今年の日本映画を代表する新作セレクションを上映。特に、海外に紹介されるべき日本映画という観点を重視。また、昨年、コンペティション部門の審査員も務めていただいた故・青山真治監督の追悼特集上映も行った。

[上映本数] 11 作品 [動員数] 2,870 人

（6）ジャパニーズ・アニメーション部門

今年も藤津亮太氏にプログラミングアドバイザーを務めていただき、「ゼロから世界を創る」「アニメと東京」「ウルトラセブン 55 周年記念上映」の 3 つの特集上映を行った。更に、それぞれのテーマに基づいたシンポジウムを実施、関連する登壇イベントを多数実施し、映画祭全体の盛り上げに大きく貢献した。

[上映作品数] 19 作品 [動員数] 1,388 人

(7) 日本映画クラシックス部門

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。本年度は、国立映画アーカイブと共催した特集上映「長谷川和彦とディレクターズ・カンパニー」の枠と連携して、デジタルリマスター作品 4 タイトルを上映した。

[上映作品数] 4 作品 [動員数] 360 人

(8) ユース部門

日本の若い映画ファンの創出、映画クリエイターの育成を目的とした部門。小学生までが対象の「TIFF チルドレン」では、恒例となった山崎バナラ氏による活弁イベント「山崎バナラの活弁小絵巻 2022」を上映。中高生が対象の「TIFF ティーンズ」では 3 プログラムを上映。また、「TIFF ティーンズ映画教室 2022」では、3 年ぶりにリアルなワークショップをアーツ千代田 3331 にて実施。今年は早川千絵監督を講師に迎え、3 チーム計 18 名の中高生の参加を得た。完成作品の上映の際は、過去 5 年間の映画教室で作られた作品も併せて上映した。その後、場所を交流ラウンジに移し、過去に映画教室の講師をお願いした 4 人の監督（諏訪敦彦、大九明子、三宅唱、瀬田なつき 敬称略 順不同）にも参加いただいたスペシャルトークショーも実施した。

[上映作品数] 16 作品 [動員数] 1,186 人

(9) TIFF シリーズ部門

昨年より新設されたシリーズものに特化した部門。TV シリーズや配信を前提としたシリーズものから選定。計 3 作品を上映した。

[上映作品数] 3 作品 [動員数] 1,056 人

(10) 国際交流基金×東京国際映画祭 co-present 交流ラウンジ

3 年目を迎えて名称を改めた交流ラウンジ。映画祭関係者が集う場としての位置づけをより明確にし、その上で、世界各国・地域を代表する映画人のトークセッションやマスタークラスを連日実施。Meet the Programmers 2022 では、国内外の様々な映画人同士が語り合い、大いに盛り上がりを見せた。

[企画内容]

10 月 25 日 (火)	ブイ・タック・チュエン×藤元明緒
10 月 27 日 (木)	ミルチョ・マンチェフスキ マスタークラス
10 月 29 日 (土)	ツァイ・ミンリャン×深田晃司
10 月 30 日 (日)	Meet the Programmers
10 月 31 日 (月)	橋本愛×是枝裕和

11月1日（火） ジュリー・テイモア×行定勲

[企画数] 6企画 [動員数] 782人 [オンライン視聴者数] 3,790人

(11) Amazon Prime Video テイクワン賞

東京国際映画祭では、更なる才能の発掘を目指して、国内外で優れたオリジナル作品を制作し、多様な映像作品を配信するAmazon Prime Videoの協賛を得て、「Amazon Prime Video テイクワン賞」を今年も実施。これまでに長編商業映画の監督・脚本・プロデューサー経験のない日本在住映画作家の15分以内の短編作品を対象とし、募集。審査委員による厳正な審査の上、受賞作品を決定。受賞者には、Amazonから賞金100万円が贈られるほか、Amazonスタジオと長編映画の製作を模索し、脚本開発に取り組む機会も提供される。今回は、残念ながら、該当者なしとなった。

[審査委員長]

行定勲（映画監督/演劇演出家）

[審査委員]

早川敬之（プライムビデオ オリジナルコンテンツ制作責任者）

部谷京子（映画美術監督）

半野善弘（音楽家/映画監督）

瀧内久美（俳優）

[受賞結果]

該当者なし

(12) 黒澤明賞授賞式、及び、「黒澤明の愛した映画」上映

本年、オフィシャルパートナーである株式会社カプコンの協賛により、14年ぶりに「黒澤明賞」が復活。日本が世界に誇る故・黒澤明監督の業績を長く後世に伝え、新たな才能を世に送り出すため、世界の映画界に貢献した映画人、映画界の未来を託していきたい映画人たちを5人の選考委員により選考し、顕彰した。授賞式の後に、コシノジュンコ演出の晩さん会が催された。また、「黒澤明が愛した映画」として7本の古今東西の名作を別途、上映した。（動員数：670人）

[選考委員] 山田洋次（映画監督）、仲代達矢（役者）、原田美枝子（俳優）、川本三郎（評論家）、市山尚三（TIFF プログラミングディレクター） * 敬称略、順不同

[授賞者] アレハンドロ・ゴンザレス・イニャリトゥ（映画監督）、深田晃司（映画監督）

(13) アニメ・シンポジウム

ジャパニーズ・アニメーション部門で焦点を当てた「アニメーションで世界を創る」「アニメと東京」「『ウルトラセブン』55周年記念上映」という3つのテーマについて、それぞれ上映作品の監督や評論家を招き語り合い、その模様をオンライン配信（一部はリアルでも開催。配信は一部英語版も用意）にて公開した。

[企画数] 3企画 [リアル動員数] 136人 [オンライン視聴者数] 6,193人

(14) 上映作品の舞台挨拶のオンライン配信

上映時のリアル登壇挨拶も同時に配信・アーカイブの形を取った。従来は、映画を鑑賞した方しか見るこのできない模様を幅広く鑑賞いただくことが出来た。

企画数 45 企画 オンライン視聴者数 122,877 人

(15) 第35回東京国際映画祭@日比谷ステップ広場 屋外上映会

東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場に高精細の LED パネルを用いた屋外上映スクリーンを設置。連日、上映会を行った。

期間：10月25日（火）～11月2日（水）

[上映作品数] 23 作品 [動員数] 11,529 人

[共催・提携企画]

(1) 第19回文化庁映画週間

①令和4年度文化庁映画賞贈賞式

優れた文化記録映画に賞を贈呈すると共に、日本映画を支えてこられた功労者を顕彰。

会期：10月24日（月） 会場：東京ミッドタウン日比谷 BASE Q

②令和4年度文化庁映画賞受賞記念上映会

文化庁映画賞優秀賞を受賞した3作品を上映すると共に、監督を招き Q&A を行った。

会期：10月30日（日） 会場：スペース FS 汐留

③ 第19回文化庁映画週間 シンポジウム

「恐怖映画の美しき世界」をテーマに、アートディレクター、監督などからお話しいただいた。

会期：10月28日（金） 会場：東京ミッドタウン日比谷 BASE Q

[上映作品数] 3 作品 [動員数] 536 人

(2) 長谷川和彦とディレクターズ・カンパニー+追悼：青山真治

主催：国立映画アーカイブ

会期：10月25日（火）～10月30日（日）

会場：国立映画アーカイブ [地下1階] 小ホール

ディレクターズ・カンパニーの代表作とその創設者である長谷川和彦監督の作品を上映。

[上映作品数] 11 作品 [動員数] 1,447 人

(3) 千代田区・第35回東京国際映画祭共催企画「千代田シネマセレクション」

会期：10月29日（土）・30日（日）

会場：ベルサール神田

千代田区民が対象の上映会。過去の東京国際映画祭上映作品から4作品を選定、2作品は監督を呼んでの Q&A も行った。

[上映作品数] 4 作品 [動員数] 663 人

(4) 交流ラウンジ 独自企画

①国際共同製作フィルムメーカーズカンファレンス inTIFF

10月26日（水）

出席者：エリック・ニアリ（プロデューサー）、半野喜弘（監督/音楽家）、リウ・ファイ（プロデューサー）、市山尚三

②日本映画の現在 10月26日（水）

出席者：工藤将亮、太田達成（以上、東京フィルメックス出品作品監督）、伊藤ちひろ、浦木元空、足立紳、まつむらしんご、半野喜弘（以上、第36回TIFF出品作品監督）

③ 特別セッション～映画プロデューサーの仕事とは～ 10月28日（金）

出席者：山本晃久（ウォルトディズニージャパン(株)プロデューサー）

（5）丸ビル1階 マルキューブイベント

①スーパー戦隊スペシャルトークショー in TIFF

・忍風戦隊ハリケンジャー20周年特集 10月29日（土）

出演者：山本康平、塩谷瞬、長澤奈央、姜暢雄

・爆竜戦隊アバレンジャー20周年特集 10月30日（日）

出演者：田中幸太郎、冨田翔、西島未智、阿部薫、木村ひさし

②『ある男』×『百花』日本映画、その海外での可能性 10月30日（日）

出演者：石川慶、川村元気

③-1 福島浜通り地域に創造が広がるために 10月30日（日）

出演者：本広克行、丸山靖博、志尾睦子、東あすか、谷賢一、森谷雄

③-2 福島浜通り地域で映画が生まれるとき 10月31日（月）

出演者：犬童一心、今泉力哉、東盛あいか、荒木啓子

③-3 浜通り地域に文化を誘致すること 10月31日（月）

出演者：犬童一心、田中まこ、馬場立治、小浪津龍平

④ 笠井信輔の新作予告編コンペティション 10月31日（月）

出演者：笠井信輔

（6）第23回東京フィルメックス

会期：10月29日（土）～11月6日（日）

会場：有楽町朝日ホールほか

コンペティション部門9作品、特別招待作品部門4作品に加え新作日本映画を紹介するメイド・イン・ジャパン部門で2作品を上映。さらに、台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター、東京国際映画祭との共催により、今年監督デビュー30周年を迎えツイ・ミンリャン監督の3作品を特集上映。

[上映作品数] 18 作品 [動員数] 7,153 人

- (7) 「PFF アワード 2022」グランプリ受賞作品上映 10月31日(月)
PFF アワード 2022 グランプリ作品『J005311』を上映。上映後、河野宏紀監督と主演の野村一瑛氏によるトークを実施。 [動員数] 68 人
- (8) 「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2022」受賞作品上映 10月31日(月)
SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2022 の国内コンペティション長編部門優秀作品賞受賞作品『ダブルライフ』を上映し、上映後に Q&A を実施。 [動員数] 83 人
- (9) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム 11月1日(火)
片山慎三監督作品『さがす』の上映に続き、片山監督と本広克英監督、高橋伴明監督によるトークを行った。 [動員数] 61 人
- (10) 監督協会シンポジウム「持続可能な若手映画人の参入へ向けての提言」 10月30日(日)
持続可能な若手映画人の参入へ向けての提言をテーマに、8 名のパネリストが活発な議論を行った。 会場：東京ミッドタウン日比谷 BASE Q [動員数] 95 人
- (11) MPA セミナー 10月26日(水)
国内外のゲスト・スピーカーが映像製作のロケ誘致とオンラインにおける海賊版対策について論議した。
会場：東京ミッドタウン日比谷 BASE Q [動員数] 54 人 [オンライン視聴者数] 716 人
- (12) Daiwa House presents トークショー
西島秀俊×津田寛治×多田琢～映像の魅力について語る～ 10月31日(月)
会場：東京ミッドタウン日比谷 BASE Q [動員数] 100 人
- (13) ケリング「ウーマン・イン・モーション」 10月31日(月)
映画界における女性の活躍や働く環境の課題、未来についてのトークを実施。
会場：TOHO シネマズ日比谷 SC7
出演者：是枝裕和(映画監督)、松岡茉優(俳優) [動員数] 105 人
- (14) 「街と映画」TIFF×STORY STUDY 11月1日(火)
出演者：種田陽平(美術監督)、川村元気(映画監督) [動員数] 38 人
- (15) 第2回みなとシネマフェスタ 11月26日(土)～12月4日(日)
港区内5地区6会場で開催し、障害者や未就学児との観覧など、幅広い方にお越しいただいた。
会場：赤坂区民センターほか [上映作品数] 6 作品 [動員数] 730 人
- (16) 京都フィルムメーカーズラボ 11月3日(木)～11月9日(水)

選抜された国内外の若手映像作家を対象に、TIFF ディレクター等を迎えて 14 のセミナーを開催。

会場：松竹撮影所、東映京都撮影所、京都文化博物館ほか

[上映作品数] 2 作品 [動員数] 613 人

(17) MPTE AWARDS 2022 第 75 回表彰式 11 月 2 日(水)

映像制作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。

会場：東京国際フォーラム ホール D5 [動員数] 105 人

(18) 映文連 国際短編映像祭 映文連アワード 2022 11 月 28 日(月)～11 月 30 日(水)

受賞 32 作品を 8 プログラムに分けて上映。監督等を迎えてのトークセッションも 2 回開催

会場：国立新美術館講堂(表彰式)、ユーロライブ(上映会)

[上映作品数] 47 作品 [リアル動員数] 500 人 [オンライン視聴者数] 300 人

(19) 第 44 回ぴあフィルムフェスティバル 9 月 10 日(土)～9 月 25 日(日)

「PFF アワードに加え、PFF スカラシップのお披露目やパゾリーニ監督と青山真治監督の特集も実施。会場：国立映画アーカイブ

[上映作品数] 42 作品 [リアル動員数] 4,600 人 [オンライン視聴者数] 3,100 人

(20) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2022 秋の国際短編映画祭

9 月 29 日(木)～10 月 23 日(日)

映画祭受賞作と松永大司監督作など 70 点以上を公開。NFT 配布やセミナーも開催。

会場：オンライン/東京都写真美術館

[上映作品数] 76 作品 [リアル動員数] 602 人 [オンライン視聴者数] 4,436 人

(21) Grand Voyage with アフリカ 10 月 24 日(月)～11 月 2 日(水)

アフリカ 5 か国と日本からの若手女性映像作家が奈良で 2 週間を過ごし製作した短編ドキュメンタリー集をオンラインで配信。 [視聴者数] 94 人

(22) 2022 東京・中国映画週間 10 月 18 日(火)～10 月 25 日(火)

日中映画祭の「ゴールドクレイン賞」も第 7 回目を迎えた。

会場：TOHO シネマズ日本橋/有楽町朝日ホール

[上映作品数] 11 作品 [動員数] 2,130 人 [オンライン視聴者数] 7,616 人

(23) 第 16 回田辺・弁慶映画祭 11 月 11 日(金)～11 月 13 日(日)

会場：紀南文化会館

コンペティション部門作品 7 作品、招待作品 5 作品の計 12 作品を上映 [動員数] 2,500 人

(24) 第 19 回ラテンビート映画祭 IN TIFF

5 作品を第 35 回 TIFF のワールドフォーカス部門にて上映

(25) サヤマ de シネマ vol.6

9月17日(土)~18日(日)

西武文理大学の学生による映画祭。第6回目の今年は池田暁監督をゲストに迎え、大盛況のうちに終了。

会場：狭山市市民会館小ホール [上映作品数] 4作品 [動員数] 708人

[顕彰・助成]

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰（アジアの未来 作品賞）
- ③ 商業映画デビュー前の若い才能に対する顕彰（Amazon Prime Video テイクワン賞）

[運営]

①自主企画の実施

先述の通り

②上映会場、各種会場

日比谷・有楽町・銀座地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

東京国際フォーラムホールC、TOHO シネマズ日比谷 SC12・13 よみうりホール、TOHO シネマズ シャンテ（2スクリーン）、角川シネマ有楽町、ヒューマントラストシネマ有楽町 Theater1、シネ スイッチ銀座（2スクリーン）、丸の内 TOEIScreen1、丸の内ピカデリー Theatre2、ベルサール神 田

・その他の会場：

東京ミッドタウン日比谷

日比谷三井カンファレンス：映画祭事務局、控室、トークサロンスタジオ、プレスルーム

BASE Q：各種セミナー、ボランティア控室、弁当・ケータリング

有楽町 micro FOOD&IDEA MARKET：交流ラウンジ会場

日比谷ステップ広場：屋外上映会場

東京宝塚劇場、帝国ホテル、丸ビル 1F マルキューブ：各種イベント、セミナー

有楽町駅前広場：チケットセンター、インフォメーションセンター等

③入場料金

○オープニング作品、クロージング作品	一般：2,600円	学生前売・当日：2,100円
○コンペティション	一般：1,600円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○アジアの未来	一般：1,600円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○ガラ・セレクション	一般：1,900円	学生前売：1,500円 学生当日：500円
○ワールド・フォーカス	一般：1,600円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○NIPPON CINEMA NOW（新作）	一般：1,900円	学生前売：1,500円 学生当日：500円

○NIPPON CINEMA NOW (特集)	一般：1,900円	学生前売：1,500円	学生当日：500円
○ジャパニーズ・アニメーション (新作)	一般：1,900円	学生前売：1,500円	学生当日：500円
○ジャパニーズ・アニメーション (旧作、準新作)	一般：1,400円	学生前売：1,100円	学生当日：500円
○ユース (ティーンズ/チルドレン)	一般：1,600円	学生前売：500円	学生当日：500円
○ユース (映画教室)	一般：1,500円	学生前売：500円	学生当日：500円
○TIFF シリーズ (イルマ・ヴェップ)	一般：2,000円	学生前売：1,500円	学生当日：500円
○TIFF シリーズ (上記以外)	一般：1,600円	学生前売：1,100円	学生当日：500円
○日本映画クラシックス	一般：1,400円	学生前売：1,100円	学生当日：500円
○黒澤明の愛した映画	一般：1,400円	学生前売：1,100円	学生当日：500円
○Amazon Prime Video テイクワン賞	一般：1,500円	学生前売：1,100円	学生当日：500円
○その他企画上映	一般：1,400円	学生前売：1,100円	学生当日：500円

④会期中の情報発信

・有楽町駅前広場の展開

映画祭期間中、有楽町駅前広場に、インフォメーションセンター、及び、チケットセンターを設置。同時に、上映作品のポスターの掲示やLEDビジョンを設置し、映画祭に関する情報発信の場とした。

・東京ミッドタウン日比谷 地下広場の展開

映画祭期間中、同時期実施の日比谷シネマフェスティバルと共に、ミッドタウン日比谷の地下広場空間に映画作品のポスター掲示等を行い、賑やかさを演出

・東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場における屋外上映の実施 自主企画(15)を参照

⑤ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFFのWEBサイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

⑥オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、公式バッグ等を販売した。

⑦クラウドファンディング

本年度もクラウドファンディングを通じ「東京国際映画祭サポーター」を募集した。値段設定や3年ぶりに復活したオープニングレッドカーペット視聴の権利やオープニングセレモニーへの参加の権利等をうまく活用し、高額設定の枠は早々に売り切れるなど、大幅な参加者増を達成する事が出来た。

[広報活動]

1. メディア登録者数

国内メディア：1,022名 海外メディア 198名

パス発行、プレスセンター運営、会期中のマスコミ対応はすべてバイリンガル対応を実施

※渡航制限により海外プレスのビザサポート等渡航に関わる支援はなし。

2. 国内宣伝パブリシティ

露出数：13,081（2022年12月15日時点）

TV 媒体広告換算値：11億2018万1090円

WEB 媒体広告換算値：90億2072万8701円

メイン会場を日比谷に移してから初めてとなるオープニング時のレッドカーペットを日比谷仲通りにて開催。これがテレビを中心に爆発的な露出を生み、大きな話題となった。

3. 海外宣伝パブリシティ 露出数：2,618

コロナ緩和を受け、ここ数年実施できなかった海外プレスの招聘を小規模ながら再開。海外の3大業界誌のうちの2つ Variety と The Hollywood Reporter がメディアパートナーとして入り、多面的な展開ができるようになった

4. 記者会見

○ラインナップ発表会見 2022年9月21日 東京ミッドタウン日比谷 8F Room1&2

○審査委員&受賞者記者会見

2022年11月2日 東京国際フォーラム

5. 国内宣伝広告 J-wave 各種番組出演・告知、LINE LIVE 企画、Filmarks 特集・バナー広告、Movie Walker 特集・バナー広告、ぴあ特集・バナー広告、ニッポン放送番組出演・ラジオ CM・バナー広告

6. 海外宣伝広告 The Wall Street Journal、Variety、Screen International、The Hollywood Reporter（紙面およびバナー広告）

7. 海外プレス招聘 . . イギリス、フランス、韓国、台湾、ベトナム、インド、バングラディッシュから12名を招聘。

8. 宣材物

予告編 2022年9月23日より首都圏各劇場にて上映

メインビジュアル . . 2021年から新たに KOSHINO JUNKO 氏がデザインおよび撮影等監修

紙媒体 プログラム、映画祭ガイド、公式記録はすべて日英表記にて作成

9. 公式 WEB、SNS の展開

SNS 展開に力を入れ、ツイッターのフォロワー数が5万人を突破。YouTube の公式番組も「TIFF チャンネル」もチャンネル登録者数が3万人を突破し、会期外も含めて戦略的に国内外へと発信。

<各 SNS フォロワー数>

Twitter : 56,848 / Twitter (ENG) : 1,235 Facebook : 22,687

LINE : 32,674 Instagram : 11,116 YouTube : 35,674

10. Cyber TIFF . . 東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の

情報発信に寄与。

(東京ミッドタウン日比谷での広報活動)

会期初日の10月24日(月)より最終日の11月2日(水)まで、東京ミッドタウン日比谷の屋外大型LEDビジョン裏面やステップ広場階段エレベーターなどを華やかでインパクトのある映画祭ビジュアルで装飾し、会場の賑わいを演出した。同様のビジュアルを館内のデジタルサイネージで展開した。また館内地下通路では数多くの作品ポスターを掲出した。

(銀座・日比谷・有楽町地区での広報活動)

各所のデジタルサイネージにおいて、映画祭のビジュアルとともに作品情報、イベント情報などを発信した。また同様のビジュアルを街頭フラッグで展開し、映画祭の賑わいを演出した。

- ① ミッドタウン日比谷正面入口ビジョン
- ② ビックカメラビックビジョン
- ③ 日比谷ゲートビジョン
- ④ 都営ステーションビジョン日比谷
- ⑤ 地下鉄連絡エスカレーター上部コルトン
- ⑥ 日比谷仲通りフラッグ
- ⑦ 丸の内仲通りフラッグ
- ⑧ 銀座通りフラッグ
- ⑨ JR有楽町駅前広場特設ビジョン、作品ポスターボード

(東京メトロでの広報活動)

東京メトロのご協力のもと、早いところで、10月1日～映画祭最終日まで、地下鉄内の車内広告をはじめ、映画祭実施地区周辺でのビジュアル展開、開催告知を行った。

- ① 東京メトロ全線車内窓上部広告
- ② 地下鉄構内 MCV ビジョン (大手町駅メインに主要駅)
- ③ 駅張ポスター
- ④ 銀座駅プラットフォーム8面看板

(東京都交通媒体での広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10月3日から11月2日までの長期間に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出
- ③ 都バス窓上広告掲出
- ④ 車内「チカッ都ビジョン」による映画祭 cm 上映

2. TIFFCOM 開催事業

■ TIFFCOM 2022 開催概要

- 1 主催： 経済産業省／総務省／公益財団法人ユニジャパン
- 2 共催： 第 35 回東京国際映画祭
- 3 日程： 令和 4 年 10 月 25 日（火）～10 月 27 日（木）
オンラインスクリーニングは 11 月 30 日まで視聴可能
オンラインセミナーは 10 月 25 日より随時スタート、その後、11 月 30 日まで
アーカイブ配信
- 4 会場： オンラインでの開催

■ TIFFCOM 2022 成果報告

TIFFCOM2022 は、前年と同様、経済産業省、及び総務省の支援を受け、コロナ禍の状況の中、3 回目のフル・オンライン開催となった。昨年の TIFFCOM2021 で確立したオンラインシステムをベースに、オンラインでは苦手とされる新規顧客との出会いを参加者に提供すべく、各種コンシェルジュサービスを導入。参加者が使いやすいオンライン環境を整えた。参加国・地域は過去最高になり、多様性に富んだマーケットになった一方、オンラインマーケットに参加するのは実務担当者中心となり、参加者数としては伸び悩み前年に 40 名ほど届かなかった。

327 の出展団体が参加、出展者の国・地域数は 33 と昨年に続き、過去最高を更新。登録バイヤー数 551 人、商談件数は 1749 件、成約金額は\$20,792,942 となった。

[オンラインマーケットで提供したサービス]

TIFFCOM2022 参加者には主に 4 つのサービスを提供した

○オンラインブース

オンラインチャット機能、スケジュール管理機能、ミーティングリクエスト機能を実装し、商談機会につながる環境を提供した。

また、CMS (Content Managing System) 対応ページにすることで、参加者は独自に情報のページ反映が即時可能になり、利便性が高まった。

○オンラインビジネスマッチング

業種やカテゴリによる詳細検索、登録情報に基づいたレコメンド検索機能といった出展者とバイヤーとの有益な商談機会につながる環境を提供。

また、新サービスとして“興味あり”通知、レコメンデーション、検索アシストの 3 種類のコンシェルジュ機能を追加し、出会いの演出が出来るように工夫した。

○オンラインスクリーニング

セキュアな環境下 (DRM) での出展者とバイヤーをつなぐオンラインスクリーニングサービスを提供。時間と空間に左右されることのないオンラインではの優位性が発揮できた。細かくカテゴリ分けされた検索機能も実装した。

○オンラインセミナー

企画ピッチとセミナーで計14のプログラムを実施。テーマは、映画、TV、配信、アニメのジャンルに加えて、配信、ゲーム、縦読みコミック等、映像周辺の新しい動きもウオッチできる内容にして、時宜をみたバラエティに富んだラインナップになった。参加者が映像関連の新しい情報を知り、知見を深めて、問題を持つことが出来るという、TIFFCOMの「場」としての価値を高めることができた。

[出展者の状況]

■ 2022年度 出展団体数【 海外：208／国内：119 合計：327 】

国・地域別出展団体数

アジア	123	日本	119	北米	16
中国	41	ヨーロッパ	60	カナダ	1
香港	4	フランス	4	アメリカ	15
インド	5	ドイツ	8	中南米	1
インドネシア	1	イタリア	4	パナマ☆	1
韓国	38	オーストリア	3	オセアニア	3
マレーシア	2	キプロス☆	4	オーストラリア	1
フィリピン	1	チェコ☆	1	ニュージーランド	2
シンガポール	2	ロシア	30	中近東	5
台湾	12	スペイン	1	イラン	2
タイ	13	スイス	1	トルコ	1
ベトナム	2	イギリス	3	サウジアラビア	1
カンボジア	1			イスラエル	1
ブルネイ☆	1				

※国・地域名の後の☆印の入っているブルネイ、キプロス、チェコ、パナマが初出展

パビリオンは日本、ASEAN（8つの国・地域）、韓国（2）、中国、タイ、ロシア、台湾、ドイツ（初）に加え、ロケーションパビリオン（日本、アジア、ヨーロッパ、オセアニア等）の計10が設置。

[登録バイヤーの状況]

■ 2022年度 : 551人

国・地域別来場バイヤー数

アジア	304	ヨーロッパ	94	北米	34
ブルネイ	1	アンドラ	1	カナダ	5
カンボジア	2	エストニア	1	アメリカ	29
中国	32	フィンランド	3	中南米	8
香港	54	フランス	12	アルゼンチン	1
インド	13	ドイツ	20	ブラジル	3
インドネシア	11	アイルランド	1	メキシコ	3

韓国	75	イタリア	7	チリ	1
マレーシア	9	ノルウェー	1	オセアニア	2
フィリピン	5	ロシア	1	オーストラリア	1
シンガポール	16	スペイン	9	ニュージーランド	1
台湾	52	スウェーデン	3	中近東	9
タイ	16	イギリス	12	サウジアラビア	1
ベトナム	12	ベルギー	1	トルコ	4
バングラデシュ	1	ハンガリー	2	UAE	3
マカオ	2	ポーランド	1	イスラエル	1
モンゴル	2	オランダ	1	アフリカ	0
ネパール	1	スイス	1		
日本	115	ポルトガル	1		
		北マケドニア☆	1		

※国・地域名の後の☆印の入っている北マケドニアが初参加

49 の国、地域から参加。海外からの参加者が全体の 79.1%を占め、昨年と比べてさらに国際色豊かなマーケットとなった。

[TIFFCOM セミナーの状況]

全 14 セミナーを開催。

オンラインでの開催のメリットを生かし、リアルだと参加が難しい登壇者（海外）にも参加してもらうことが可能となった結果、映画、TV、アニメに限らず周辺領域も含めて、多様なセミナーが実現できた。

開催内容

1. キーノート「Tencent Games が考えるゲーム×アニメの展望とその可能性」
2. 「クランчиロールとファンのつながり方：アニメアワード 2023 に向けて」
3. 「MPA/DHU/TIFFCOM マスタークラス・セミナー&ピッチング・コンテスト」
4. 「『アニメ産業レポート 2022』に見えてくるアニメ最前線」
5. 「東京ドラマアワード 2022 受賞結果最新情報」
6. 「日本の動画配信市場動向と、変化し続ける U-NEXT の展望」
7. 「海賊版サイト対策 3.0 の到来～新たな国際連携の実現にむけての提言～」
8. 「日本のアニメスタジオの海外戦略 ぼくたちの明るい海外戦略」
9. 「TIFF セラー作品予告編集」
10. 「日本の最新フォーマットのプロモセッション」
11. 「Tokyo Docs 推薦 7 人のドキュメンタリー作家たち」
12. 「縦読みコミックから始まる新しい IP ビジネス」
13. 「JETRO 主催 Web3.0 時代の IP ビジネス メタバース時代の日本の IP 企業の可能性」
14. 「東京国際映画祭共催企画 第 12 回 MPA セミナー」

[TOKYO GAP FINANCING MARKET (TGFM) の状況]

製作予算がある程度集まっている作品に対し、残りの資金調達のサポートを行うため、作品への投資を行う可能性のあるインベスターと作品プロデューサーとのマッチングを行う TGFM を昨年に続き、3 回目を実施。24 の国と地域からの応募企画より 20 作品を選定し、TIFFCOM2022 の期間中 3 日間に 269 件を超えるオンラインミーティングを実施した。なお、過去 2 回の TGFM 参加作品からはすでに複数企画が完成し、世界各地の映画祭や劇場で高い評価を得ている。

バイヤー、セラーの参加が中心に TIFFCOM に、製作に関わるプロデューサーや資金を提供するインベスター等が参加する本企画が加わったことで、多様な映像業界関係者が集うマーケットへのステップを踏み出すことが出来た。今後、さらに映像作品を作ることに関わる人たちが多く参加するマーケットをさらに目指していく。

3. 国際振興支援事業

【 国際展開支援 】

(1) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援（文化庁の委託事業）

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

■ 令和 4 年度支援実績

1. 支援内容と支援件数

(A) 支援対象映画祭公式部門出品への支援	申請件数	34	採択件数	29
(B) 3 大映画祭長編メインコンペティション部門出品への支援	申請件数	1	採択件数	1
(C) 支援対象映画祭映画祭公式部門出品への支援(個人からの申請)	申請件数	27	採択件数	23
(D) クラシック(デジタルリマスター 3 大映画祭出品時字幕制作)	申請件数	4	採択件数	4

2. 選考

(A) 前期、中期、後期に分け、それぞれ選考委員会を開催し支援作品の選考を行った。

・前期(5月~7月)	申請件数	24	採択件数	21
・中期(8月~11月)	申請件数	31	採択件数	26
・後期(12月~3月)	申請件数	11	採択件数	10

(B) 選考委員会のメンバーは以下の 5 名に委嘱した。

- ・坂野 ゆか(川喜多記念映画文化財団)・新藤 次郎(日本映画製作者協会代表理事)
- ・華頂 尚隆(日本映画製作者連盟)・石飛 徳樹(朝日新聞社編集委員)
- ・林加奈子(元 TOKYO FILMeX ディレクター)

(2) 日本映画・映像コンテンツの海外発信支援（文化庁の委託事業）

■ 主要映画見本市への「ジャパンプース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う 事業者に提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

出展した映画祭

- (A) カヌヌ国際映画祭 (開催日程 5月17日～28日) 公式出品作品 3本
同マーケット (開催日程 5月17日～25日)
オンラインでのジャパンプースの設置のほかに、公式出品作品の日本映画の監督を招致しオンラインでのセミナーを実施した。
- (B) アヌシー国際アニメーション映画祭 (開催日程 6月13日～18日) 公式出品作品 14本
同マーケット (開催日程 6月14日～17日)
- (C) ベルリン国際映画祭 (開催日程 2月16日～26日) 公式出品作品 7本
同マーケット (開催日程 2月16日～22日)
ジャパンプースの設置のほかに、若手日本人監督のプロモーションと交流を目的とした「日本人新人監督海外プロモーション」を実施した。期間中、業界誌 Screen International への日本映画の特集記事や「日本人新人監督海外プロモーション」参加監督の紹介記事の掲載を行った。

(3) 国際共同製作支援 (経済産業省の委託事業)

■ 日中協定における取組機関としての事務業務

弊財団は日中映画共同製作協定の取組機関として委任を受けており、認定申請の受付を行い、文化庁の「国際共同製作への支援」との合同説明会を実施、認定申請の書類審査を継続して行った。今年度は該当する完成作品はなかった。

- ① 応募要項、応募様式の作成
- ② 申請予定者向けの説明会開催概要

「日中映画共同製作認定／国際共同製作映画支援 合同説明会」

日時：令和4年12月5日(月) 13:30～15:00

開催方法：オンライン会議システム

参加者： 49人

参加省庁：経済産業省、文化庁

【 情報発信 】

- (1) 海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database(JFDB)の運営
(国際交流基金との共同事業)

主に 21 世紀の日本映画に関して、公式日英バイリンガルのオンラインデータベースの運営を継続的に行っている。令和 4 年には日本国内で 1 週間以上劇場公開された作品を中心に、約 200 本を新規掲載し、JFDB アーカイブと題した一部のクラシック作品も含め、現在合計で 6,500 作品以上のデータを収めている。海外販売をサポートするため映画マーケットでのセールス作品に特化したページ”Market Look”や、年間の特筆すべき作品を特集したページも掲載している。

(2) 海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布 (文化庁の委託事業)

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、令和 4 年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

■ Japanese Film 2022 の概要

- ① 配布数： 1,800 部（冊子）及びデジタル版
- ② 配布先： カンヌ、アヌシー、TIFFCOM（東京）、ベルリンの各映画祭、見本市開催時に配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品： 選考委員会により 80 作品を選出し、日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計： 一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会より協力を得て、各種統計情報を掲載

(3) 第 19 回 文化庁映画週間の実施（文化庁の委託事業）

我が国の映画芸術の向上とその発展に資するため、文化庁映画賞として優れた文化記録映画作品（文化記録映画部門）及び永年にわたり日本映画を支えてきた功労者（映画功労部門）に対する顕彰を行った。また、国立映画アーカイブの展示企画「ポスターでみる映画史 Part4 恐怖映画の世界」と連携し、洋邦の恐怖映画をテーマとしたシンポジウムを実施した。

【令和 4 年度 文化庁映画賞】

令和 4 年度 文化庁映画賞 文化記録映画部門 受賞作

[文化記録映画大賞] 『私だけ聴こえる』 監督：松井至・製作：テムジン/リトルネロフィルムズ（国際共同製作：フィルモプシオン インターナショナル）

[文化記録映画優秀賞] 『カナルタ 螺旋状の夢』

監督・製作：太田光海

[文化記録映画優秀賞] 『うむい獅子 -仲宗根正廣の獅子づくり-』 監督：城間あさみ・製作：株式会社海燕社

令和 4 年度 文化庁映画賞 映画功労部門 受賞者

笠松則通 撮影監督

田村實 立体アニメーション撮影
坪井一春 組付大道具
弦巻裕 映画録音
安井喜雄 フィルムアーカイブ
安彦良和 アニメーター キャラクターデザイン

●文化庁映画賞贈呈式

- ・会期・会場：令和4年10月24日（月）15時30分～
- ・会場：東京ミッドタウン日比谷 BaseQ
- ・主催：文化庁

●文化庁映画賞 受賞記念上映会

- ・会期：令和4年10月30日（日）
10時00分～『カナルタ 螺旋状の夢』上映
Q&A ゲスト：太田光海（監督） 司会：池田香織
13時00分～『うむい獅子 -仲宗根正廣の獅子づくり-』上映
Q&A ゲスト：城間あさみ（監督） 司会：池田香織
16時30分～『私だけ聴こえる』上映
Q&A ゲスト：松井至（監督） 司会：池田香織
- ・会場：スペースFS 汐留
- ・主催：文化庁

●シンポジウム

「恐怖映画の美しき世界」

- ・会期：令和4年10月28日（金）16時00分～
- ・会場：東京ミッドタウン日比谷 BaseQ
- ・主催：文化庁
- ・共催：公益財団法人ユニジャパン
- ・協力：国立映画アーカイブ

■第一部「アートワークで魅せる美しき恐怖映画」

登壇者：

大島依提亜（アートディレクター・グラフィックデザイナー）

葛西健一（アートディレクター・グラフィックデザイナー）

ファシリテーター：

岡田秀則（国立映画アーカイブ主任研究員・展覧会担当）

■第二部「世界に伝播するジャパニーズホラーの美学」

登壇者：

黒沢清（監督）

篠崎誠（監督・立教大学現代心理学部 映像身体学科教授）

ホセ＝ルイス・レボルディノス（サンセバスチャン国際映画祭 ディレクター・ジェネラル）

【 人材育成 】

「第 44 回 PFF」の共催（川喜多記念映画文化財団の補助事業）

公益財団法人川喜多記念映画文化財団の指定寄付を受けて、「第 44 回ぴあフィルムフェスティバル（PFF）」に共同主催として参画した。

■開催概要

- ・会期：2022 年 9 月 10 日（土）～25 日（土）
- ・会場：国立映画アーカイブ
- ・主催：一般社団法人 PFF、独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ、
公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン

■最終審査員

菊地健雄（映画監督）、玉川奈々福（浪曲師・曲師）とよた真帆（俳優）、三島有紀子（映画監督）、光石 研（俳優）

■受賞結果

グランプリ	『J005311』河野宏紀監督
準グランプリ	『スケアリーフレンド』峰尾 宝、高橋直広監督
審査員特別賞	『the Memory Lane』宇治田 峻監督 『MAHOROBA』鈴木竜也監督 『幽霊がいる家』南 香好監督
エンタテインメント賞(ホリプロ賞)	『水槽』中里有希監督
映画ファン賞(ぴあニスト賞)	『瀉血』金子優太監督
観客賞	『スケアリーフレンド』峰尾 宝、高橋直広監督

■東京国際映画祭での特別提携企画

- ・ PFF アワード 2022 受賞作品上映